

平成 29 年 度 千早赤阪村立学校園 評 価 報 告 書

学校園名 （千早赤阪村立中学校）

校園長名 （ 西岡 智 ）

1. 教育目標

【学校教育目標】

- 確かな学力をつける
- 豊かな心を養う
- 健やかな体を育てる

2. 経営方針

- 新しい職務での適切な遂行に係る個々の努力と学校組織への参画意識の醸成
～「置かれた場所で花を咲かす」努力が個及び組織の成長につながる
- 生徒指導における学年・学校全体での迅速な情報及び指導方針・指導方法の共有
「報告」「連絡」「相談」の徹底による意思疎通の徹底
- 子どもの学力向上をめざした基礎・基本の徹底と新学習指導要領に対応した授業
改善と教師一人ひとりの授業力の向上
- 経験の浅い教職員と共に学ぶ姿勢を大切にし、育成を図る
- 「プロ」の教師であること（強い責任感）を常に自覚し、子どもの指導にあたる。
子どもにとっての社会人としての模範となる。
- 子どもの進路保障と絶対評価の検証と工夫・改善
- 個々の子どもの実態に応じた支援教育の実践

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>○学力向上をめざした「授業力の向上」の徹底 ～授業改善の継続的な取り組みと組織的な授業研究</p> <p>○スクールエンパワーメント事業の経験を活かし、アクティブスクール(AS) 事業に係る新学習指導要領の内容を踏まえての研究の推進</p> <p>○生徒一人ひとりの進路保障と絶対評価の検証・工夫・改善 ～チャレンジテストへの対応と進路情報の的確な収集と活用</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○研修部主導による研究授業及び研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の「めあて」と「振り返り」を重視した授業の実施 ・経験の浅い教員の日頃の「困り感」から授業観察のポイントを考察 ・アクティブラーニングの手法を実際に授業の中で展開する取り組み <p>○アクティブスクール事業による具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業スタンダードの確立と授業規律の徹底 ・自学自習ノートの継続的な実施 ・定期テスト及び実力テストにおける活用問題の取り組み ・テスト前学習会・放課後学習会の実施～支援員（学生）の活用 ・学校公開による他校教員の授業観察受け入れと意見交換 <p>○チャレンジテスト対応と進路指導資料の確立及び的確な指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジテスト実施直前における各教科での対策と指導 ・入試情報の収集及び的確な入試資料づくり ・進路委員会での判断と担任の生徒への指導に対する支援
C	自己評価／成果と課題	<p>○授業力向上・授業改善の取り組み</p> <p>年2回の相互参観授業と法定研修と連携した授業研究の取り組みを実施。授業スタンダードによる授業規律の一層の徹底ができた。他校の先生からも意見を聞くことにより改善向上の意欲が高まった。</p> <p>○自学自習態度の育成</p> <p>自学自習ノートの昨年度以上の徹底を図ったが、学年による取り組みの差が出たことは残念。</p> <p>○進路指導における資料の精選化と担任への支援</p> <p>他校の進路指導担当との連携による進路指導の適正化が進んできた。本格的な進路指導が始まるまでのガイダンス的な支援が必要</p>
A	次年度に向けて	<p>○各教科担当による新学習指導要領の研究（全教科解説図書購入）とアクティブラーニングの実践を推進する。特にテストにおける活用問題の充実を図る。</p> <p>○自学自習態度の育成が生涯学習の観点からも重要であり、保護者への継続的な理解を図り、生徒の自己形成的評価にもつなげてやりたい。</p> <p>○継続的に進路指導資料の点検を図り、的確な進路指導につなげていき、一層の生徒や保護者の安心感・信頼感が得られるよう努力する</p> <p>キャリア教育の観点も含めて、早期の進路指導支援体制を構築する。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<p>○「当たり前のことを当たり前にする」という生活規律を規範とする指導実践と子ども一人ひとりの個性を大切にした生徒指導の実践</p> <p>○自主的な判断・行動ができ、コミュニケーション力を身に付けた子どもの育成と自分の考えや意見を積極的に表出する授業の創造</p> <p>○「道徳の時間」の研究と教科化に向けての対応。内容項目の計画的な実施。府中学校道徳教育研究会南河内大会に向けての授業研究</p> <p>○個々の子どもの実態に応じた支援教育（発達障がいも含めて）の更なる理解と実践（通常学級・支援学級及び通級指導の連携）</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>○生徒指導方針の徹底と全校体制での「生徒理解」 ・集団生活を送る中での規律やマナーの徹底を図りながらも、子ども一人ひとりの個性も大切にした生徒指導の実践</p> <p>○自分の意見や考えを積極的に表現する授業の創造及び生徒の主体的な活動の支援 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた主体的かつ対話的な学びを継続的に授業で導入し、授業の活性化を図る。 ・学校行事、生徒会活動、委員会活動等の取り組みを通して、子どもの自主性（企画力・創造力）を身に付けさせる。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえた道徳の研究授業の実施と研修 ・視聴覚教材と考える手法での研究授業の実施と他校教員との意見交換</p> <p>○支援学級の個々の生徒理解と個に応じた教育計画と実践</p>
C	自己評価／成果と課題	<p>○一部保護者から指導方針についての教師による考え方の違いが指摘されている。生徒指導部会では詳細な情報交換を行い、指導の徹底化を図っているが、全体での定期的な方針の徹底化が必要</p> <p>○生徒会や委員会において、生徒が自主的に自らの考えをもって、行動しようとする動きが随所に見られてきた。継続的に支援することが重要</p> <p>○府中学校道徳教育南河内大会におけるプレ公開授業を実施。他校の先生との今後の道徳の授業方法について意見交換ができ、今後に生かしたい</p> <p>○支援学級在籍生徒及び通級学級対象生徒の綿密な情報交換と指導計画について意見交換を行った。関係諸機関との連携の充実化も図った。</p>
A	次年度に向けて	<p>○学校として的一致した指導方針を確認し、教師によって指導のブレが無いように努めたい。保護者へも機会ある毎に指導方針の説明を行う必要</p> <p>○生徒の自主的な活動の支援と成功感を持たせてやる指導が必要。</p> <p>○道徳の教科化に向けての教科書選定業務遂行と評価方法の具体的な指針と方法の検討を研修部を中心に推進する。</p> <p>○保護者の安心感につながるよう、細やかな家庭との連携が必要。家庭訪問を中心として、定期的な保護者との意見交流が重要と考える。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

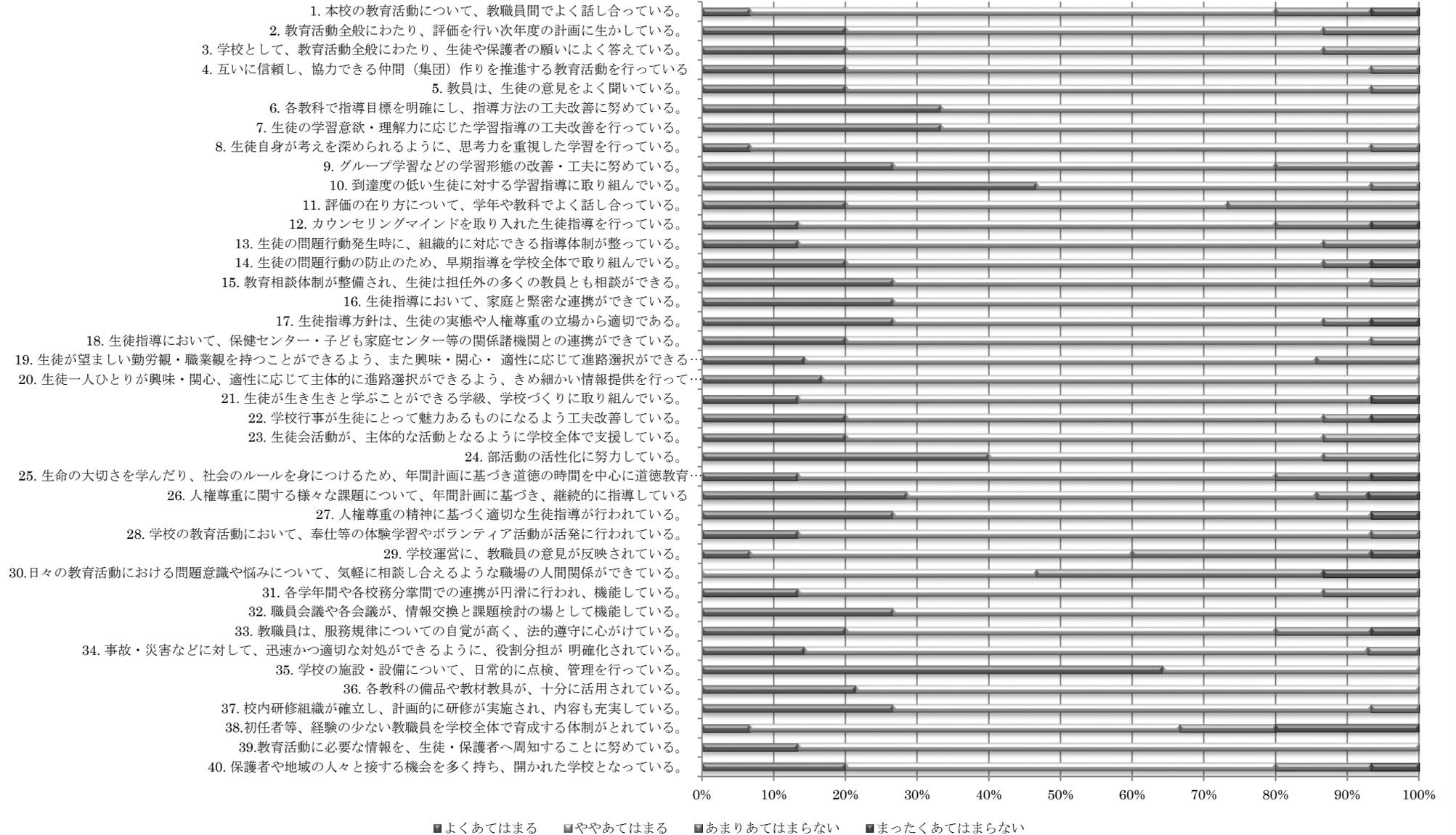
		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・暴力・不登校ゼロの学校づくり ○高い人権意識に裏付けられた生徒指導・生徒理解 ○危機管理としての防災教育の推進と安全管理の徹底
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期における「教育相談期間」の設定と「いじめアンケート」の実施 学期ごとに「教育相談期間」を設定し、担任が各生徒と面談を行う。 事前に「いじめアンケート」を実施し、即座に対応している。 ○東人研・南人教における実践報告・「未来塾」への参加 2年にわたる実践報告の作成と東人研・南人教での発表 ○避難訓練の計画的な実施と防災アドバイザーによる指導 防災アドバイザーの助言による避難訓練の見直しと緊急時の対応について具体的な指導を頂いた。 ○日常的な施設の点検と即時の修理及び村教委との連携 ○登下校指導の実施と通学路の安全点検
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめアンケート」による迅速な対応と家庭環境までも含めた生徒理解により、生徒の安心感につながっている。 ○本校東人研担当を中心として、南人教事務局との連携を密にし、本校発表者の実践報告についてきめ細やかな指導を頂いた。今後も実践発表会等の参加を呼び掛け、研修する機会とする必要がある。 ○健康安全部による定期的な安全点検の実施ができた。今年度は長年の懸案である村道の規制と校門設営について、村教委との連携により、大きく前進した。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○教師と生徒の信頼関係があつてこそその「いじめアンケート」であり、生徒の信頼構築に一層取り組む必要あり。 ○東人研・南人教・大人教の実践報告や「未来塾」へのできる限りの参加機会を保障し、他の学校の先生から違った角度からの生徒理解を考える機会とし、より多角的な生徒理解に本校教員も取り組んでほしい。 ○次年度には校門が設営され、本校を許可なく通過する車両、人はなくなるので、安心感は高まるものの、学校として不審者対応訓練等を推進する必要がある。保護者の生徒の送り迎えも含めて、車両の通行についての方法と安全について周知徹底する必要あり ○定期的な安全点検と通学路の安全点検を兼ねた登下校指導の継続実施

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		予備（各校独自の重点項目があれば記載）
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を中心とした教員個々の教育実践力（授業力・担任力）の育成 ○職務専念と効率的・効果的な職務の遂行（超時間労働に対する意識） ○創造的な教育活動の展開（挑戦・工夫・改善） ○子ども一人ひとりを繋いでいく仲間（集団）づくり
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職が研修部と連携を取り、教師にとって「授業力」を付けることが何よりも大切であるということ職員研修で機会をとらえ、間接的に指導する。昨年度同様、管理職による授業観察と授業後の即時指導を実施。 ○職員会議や職員朝礼において、服務について適宜指導 教職員の不祥事例を新聞記事などから示し、注意喚起を行う。 ○生徒の状況に応じた柔軟な発想も含めた教育実践の展開、前年度踏襲にしない提案の働きかけ ○学校行事を中心とした集団づくりと日々の学校生活における班活動等を活用した仲間づくりとすべての子どもの学校における「居場所」を保障する取り組み
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○より具体的な授業改善点について、授業者の教員と意見交換ができるようになった。管理職も教員が理解しやすい指導助言に心がけた。 ○職務専念義務という観点と職務の効率化による長時間労働に対する注意喚起と意識向上を図った。勤務時間管理簿の提出の徹底。 ○経験の浅い教員が多いからこそ、挑戦する気持ちで新たな企画を打ち立ててもらいたい、経験浅い故か、前年度踏襲による安心路線に陥りがちである。 ○学校行事における集団づくりの意義や目的についての教職員の意見交流や確認が不十分な場面が多かった。そのため、ただ行事を進めているだけという場面が見られた。教室に入れない生徒への丁寧な対応はできた。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察におけるポイントをより具体化し、助言する際にもすぐに改善できる手法について提案できるようにする。教育センター等での教員に対する指導方法について研究し、校内でも生かしていく。 ○職務の効率化の徹底と部活動も含めての教職員の勤務時間について改善を具体的に検討していく必要がある。 ○「集団づくり」と「居場所づくり」の具体的な実践方法について、先進校や人権実践報告などから学ぶ機会を作り、特に経験の浅い教員が「子どもとの関わり方」について自らの実践と比較して、考察する機会としたい。 ○教室に入れない生徒の対応について、村教委に「適応指導教室」設置を強く要望していきたい。

4. 教育自己評価

【教職員による評価】



◇今年度も例年通り、教育自己診断を実施。その結果からの分析（アンケート項目、グラフ参照）

○教職員が肯定的にとらえている（「よくあてはまる」の50%以上）項目を見ていくと、

- ・健康安全部を中心に定期的に学校施設点検を全教職員で実施しているので、日常の点検・管理はできていると評価している。
- ・今年度は、「よくあてはまる」が50%を超えているのが、上記のみで、昨年度に比べて教員の自信の低下があるように思われる。
- ・「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計で90%以上を超えている項目は、19項目（全40項目）有るので全般的には肯定的に捉えているものの、気になる点である。

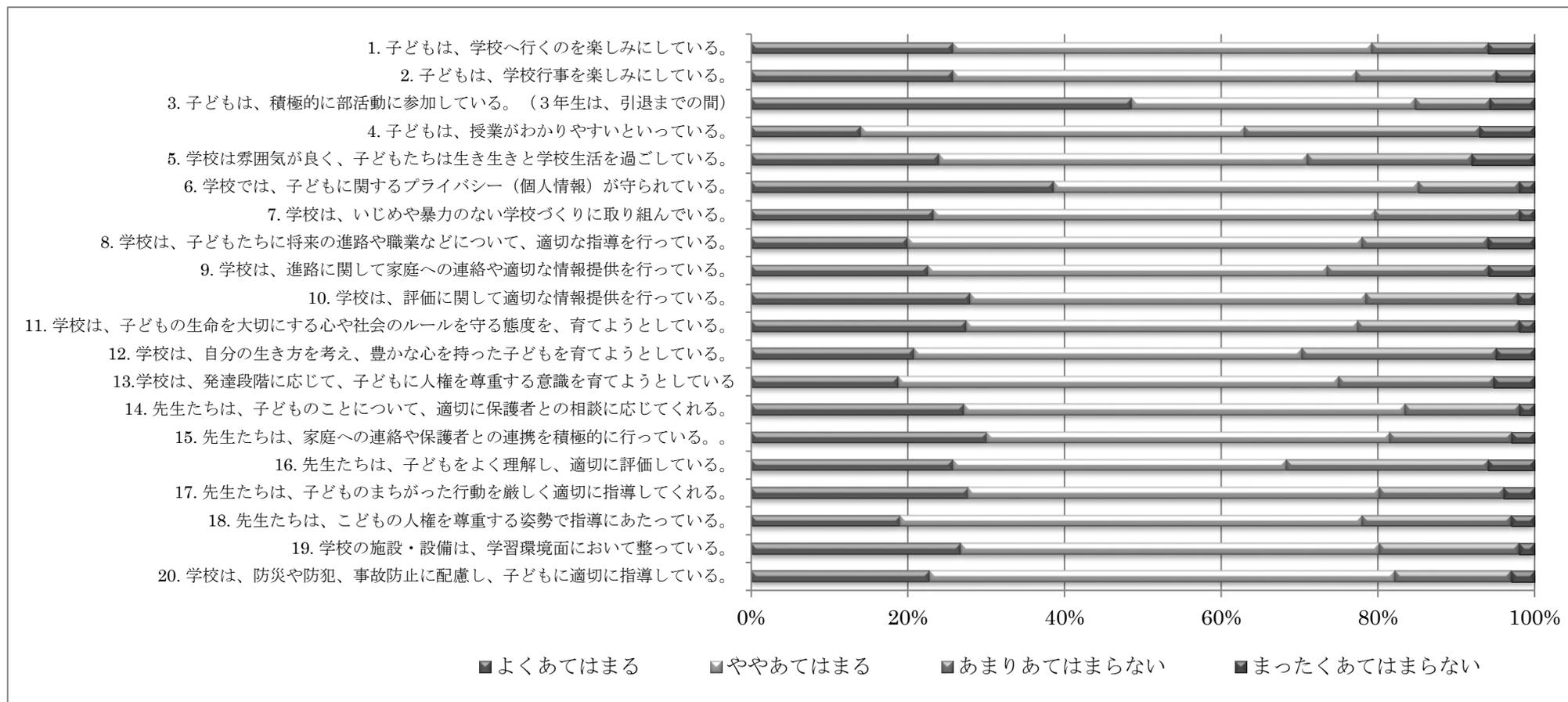
●教職員が否定的にとらえている（「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計25%以上）

- ・評価の在り方について、学年間や教科であまり話し合われていない実態があるとしている。教務部から学期末には評価の付け方については示されてはいるものの、いざ自分が評価しようとする時迷っている教員が多いと考えられる。教務部からの丁寧な説明が今後必要かと判断される。
- ・学校運営に教職員の意見が反映されていないとしている教員が40%（実数で6人、全体15人）もいる。職員会議での意見集約の在り方も含め、なお一層、日頃からの教職員の声に管理職は耳を傾け、学校運営に活かす必要がある。
- ・日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に話し合える雰囲気がないと半数以上の教員がとらえている。経験の浅い教員が気軽に助言を求める雰囲気が少なくなっているようである。ミドルリーダーとされる中間層的な経験の教師がカウンセリングマインドを心得、指導や助言をするべきだと考える。経験の浅い教員にとって意見が言いにくい雰囲気が少なからずあるのだと考える。
- ・初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれていないとする教員が30%以上。研修部の授業研究等では経験の浅い教員を焦点にした研修が企画実行されているが、それだけでは不十分だということだろう。そうした体制作りも大切であり、具体的な検討も喫緊に必要と思われるが、経験の浅い教員の自己研修も求められるところである。

◆意見の考え方、指導法の相違による否定的な評価⇒教職員の連携や人間関係に影響

- ・昨年度同様、ほぼ半数項目にわたって「まったくあてはまらない」としている教員が1名存在している。他の教職員から離れていこうとする姿勢を改善してもらわないと是正しにくい。年度末の開示面談でも管理職との細かな意見交換を行い、相互理解を図った。

【外部アンケート等】【教育自己診断・保護者の結果より】



○生徒が部活動に積極的に参加しているとしているが、昨年度に比べて「あてはまる」が15%ほど減少している。部活動の意義は認めているものの、保護者、生徒ともに積極的に部活動に関わろうとする姿勢が弱くなってきている。通塾生の増加が影響している。

●今年度も授業がわかりにくいと回答している保護者が40%近くに上っている。研修部を中心に授業改善に取り組み、経験の浅い教員はもちろんのこと、教員全体の授業力向上に引き続き取り組む必要がある。

●40%近くの保護者が「子どもが生き生きとしていない」「子どもを理解し、適切に評価していない」としている。生徒理解について保護者の不安感なり、不満があるとみられる。保護者からじっくりと意見を聞く機会（学年懇談等）を利用し、意見聴取に努めたい。

5. 学校園関係者評価

◇PTA 及び地域の方々からの総合的な評価

- ・「校内整備作業」において協力し合って一生懸命作業に取り組む姿が印象的である。
- ・学校にくる訪問客に対しても挨拶がしっかりできている。「気持ちいい学校ですね。」とお褒めの言葉を頂く。
- ・今年度はスクールカウンセラーとの連携がこれまで以上にスムーズで保護者のカウンセリングも積極的に進めることができている、保護者の安心感につながっている。
- ・陸上部の南河内駅伝大会における優勝は、6人ギリギリの選手構成で他の市町村教委からも多大な評価を頂いた。また、吹奏楽部は地域や小学校の行事に積極的に参加し、その長年の功績が認められ、「子どもさわやか賞」を受賞した。

6. 第三者評価

◇本校学校評議員からの評価（意見）

- ・村の特徴、良さを伝える教育を展開し、地域のつながりを生徒が感じられる取り組みが欲しい。
- ・生徒同士の言葉遣いの乱暴さが気になる。いじめに繋がらないか心配。
- ・教師の指導の強弱が生徒によって異なるのは問題である。指導方針をしっかり持ってもらいたい。
- ・教員の服装が指導する立場の者としてふさわしくない服装の教員が見受けられる。TPOを考えた服装に対する意識を望む。
- ・文化発表会が合唱中心となっているが、読書感想文の発表等他の文化的な取り組み発表があってもいいのではないか。
- ・教員の幅広い知識技能習得に基づく授業力向上を願う。自分の意見や考えをまとめ、文章で表現したり、発表する指導が必要。大学入試も記述式に変更される。
- ・海外派遣事業の事前研修に中学校教員も参加すべき。今後は国内での英語キャンプ等の方法も検討すべき
- ・スクールバスについては、小吹台地区のみでなく他の地区の生徒も平等に利用できた方がよい。スクールバスの運営については、一度白紙に戻し、幼稚園や小学校も含めて検討すべき。
- ・保護者が数年前とはかなり変わった。以前のような感覚ではなくなっている人も多い。学校の校則を守らなくてもいいと言う親がいる。個が先になり、集団を見ていない生徒や親が増えている。校則が全て正しいとは思わない。表面的な部分（服装・頭髪など）と社会性（人として大切な事）は分けて考えるべき
- ・スマホやSNSの利用で、子ども同士、子どもと親で会話が非常に少なくなっている。SNSのやりとりの中でトラブルも多いし、できるだけお互いに顔を見て、表情を感じながら会話する事が重要になってきている。親も子どもの表情から、子どもの心の状態をもっとつかむべき。親子でのコミュニケーション不足を感じる。もっとコミュニケーションをとるべき。文明の力が人間の生活に悪影響を与えている部分もある。